



遣伯使見聞録



Parabéns!

(おめでとうございます!)

18日「先生の日」のパーティーに参加しました。これは、豊橋で言うところの「教育研究発表会」と「豊教組大パーティー」が一つになったような会でした。自分の研究テーマ(プロジェクト)を決め、取り組んだ成果が評価され、表彰されていました。研究内容まではわかりませんでしたが、がんばりを評価されることはうれしいし、次へのやる気にもつながりますね。



⑫ 10月18日(金) SANTOS DOUMONT 学校訪問(全日制) ⇔ 二川小学校

- アンドレ校長(8年目)
- 児童数 285人 (特別支援 14人)
 - 教員数 14人
 - 学級数 10学級
 - IDEB 7.3

【校長先生の話】

本校は、午前は教員が、午後は大學生が指導していて、本来の全日制になっていない。一日かけて、学習面についても生活面についてもしっかり指導したい。学習が遅れている子については、三役(校長、教員指導担当、生徒指導担当)が取り出し



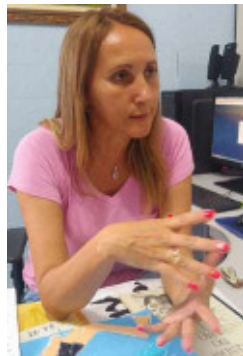
て指導している。

さぼったり、気力がなかつたりして学校を休む子はいない。親は子どもを学校に行かせないと児童手当が出ないから行かせる。

★お金、愛情、父親の存在がない子が多いそうです。そのような子たちのために、日本の「道徳」のように、時間割に設定し、子どもとともに考えていくのはどうかと提案しました。

⑬ 10月18日(金) SANTA TERSINHA 学校訪問(二部制) ⇔ 植田小学校

- ライデ校長(2年目)
- 児童数 360人 (特別支援 8人)
 - 教員数 18人
 - 学級数 11学級
 - IDEB 7.1



【校長先生の話】

IDEBの点数が5.5から7.1に伸びた。この調子で今回も点数をあげたい。そのために、子どもが学校に来るように親に呼びかけている。宿題を出して親にも見てもらう。校長と教員指導担当が子どもたちがもっと勉強ができるようになるために空き時間に教員一人一人とよく話をしている。

発達の遅れに疑いがある子については、教育局に頼んで検査してもらい、場合によっては特別支援学校に替わることもある。

★子どもたちといっしょに市内観光の汽車型のバスに乗りました。汽笛や爆音のミュージックに子どもたちも街の人もノリノリでした。ブラジルの雰囲気を感じることができました。

★豊橋市で研修をした先生が二人いました。「豊橋では大変だったけど、とてもよい経験ができた。他の先生にもぜひ豊橋で研修してほしい」と言っていました。



いじわる? ~ナッツコラム~

ナッツはこの「ブラジル派遣の命綱」として、ポケットークを買ったんだよ。通訳さんがいないとき、本当に助かってるね。でもいじわるなナッツは、日本語の微妙な表現が翻訳できるか試してみた。あっているかわからないけど、ポケットークはしっかり翻訳してくれた。さすがポケットーク! ナッツを助けてやってくれ! (ナッツの腕時計より)

- さっぱり → Atualizando
- しっとり → Úmido
- こってり → Cheio
- どろっと → Mushy